

『未来へ おのまち総合計画』

～平成30年度からのまちづくり5カ年計画を策定～

町では、平成21年度から平成30年度までの10年間を計画期間とする「第四次小野町振興計画」を策定し『きらめく人と自然 あったか小野町』を将来像に掲げ、その実現に向けた取り組みを推進してきました。

第四次振興計画は、平成25年度に前期計画を終了し、平成26年度からは後期計画を実施してきました。しかし計画全体として9年を経過し、その間社会・経済情勢の変化や住民ニーズの多様化が進みました。また国全体が人口の自然減少時代を迎え、あらためて人口減少対策も緊急の課題として浮かび上がってきており、いわゆる地方創生の取り組みも求められてきています。

そこで後期基本計画の目標年度を1年早め、まちづくりにおけるさまざまな課題に対応し、基本構想に掲げた町の将来像の実現を目指すため、今後5年間のまちづくりの方向性と目標を明らかにする計画として「未来へ おのまち総合計画」(以降、「新計画」といいます。)を策定しました。



小野町振興計画審議会の様子

◆基本理念

基本理念は、小野町のまちづくりを行っていく上で、最も重要な基本姿勢であり、町政運営を進めるにあたって基本的な考え方を示すものです。

新計画では、次の4つの基本理念を掲げています。

①「安全安心で住みやすいまち」

住民が日常生活を安全な環境で安心して暮らせるよう、快適ですみやすいまちづくりを推進します。

②「オールおのまち」

行政・住民・あらゆる産業分野など町民全員参加での協働のまちづくりを推進します。

③「自然を活かす・環境を活かす・人を活かす」

町にもともとある地域資源、里山風景、強固な地盤、交通インフラなどを活かしたまちづくりを推進します。また人をはぐくみ、人の力で活路を見出すまちづくりを推進します。

④「持続可能なまち」

住んでいる町民が今後人口が減っていく中であっても、快適に暮らせる環境づくりを推進します。